

2008年4月15日

アイエヌジー投信株式会社

**ING、アジア太平洋地域の投資家の経済見通しや投資姿勢に関する心理調査
第3回「ING 投資家心理ダッシュボード調査」(ING Investor Dashboard Survey)の結果を発表
～世界市場の動向にアジア太平洋地域の投資家心理指数は低下するも、
中長期的な経済状況については慎重ながらも前向きな姿勢～**

ING アジア・パシフィック(以下、ING)は本日、アジア太平洋地域の投資家の市場見通しや投資姿勢に関する、独自の投資家心理調査「ING 投資家心理ダッシュボード調査」(ING Investor Dashboard Survey)の第3回目の調査結果を発表しました。

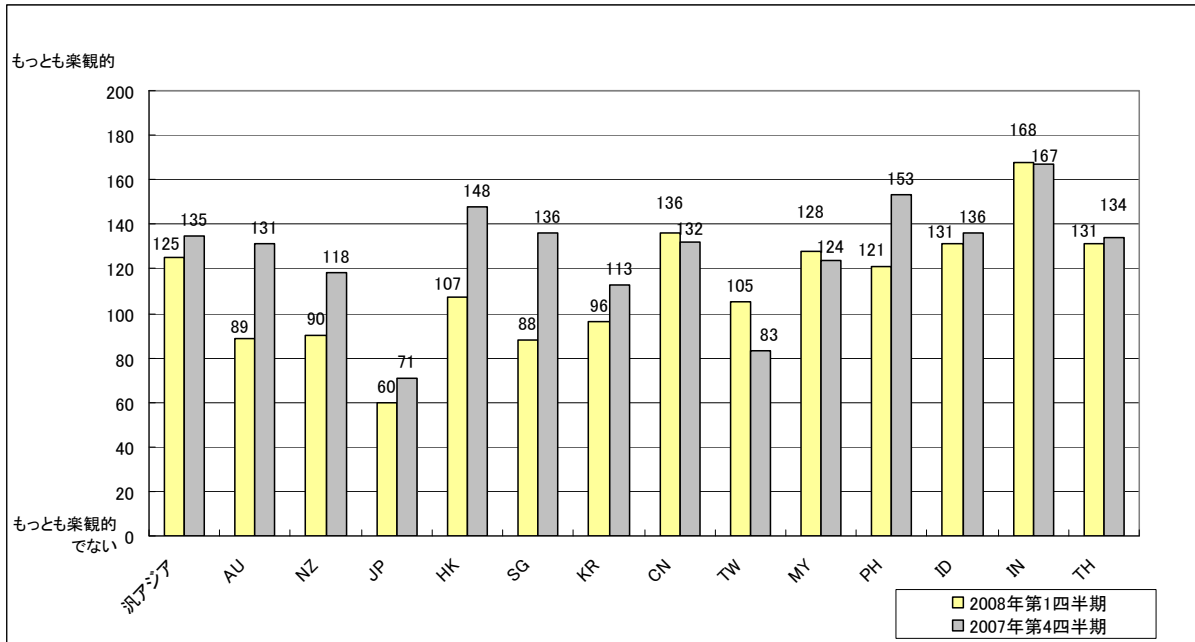
本調査は日本を含むアジア太平洋地域における13の国と地域のマス富裕層の個人投資家1,308人を対象に、調査会社TNS社が2008年3月に調査を実施し、結果をまとめたものです。日本においては、30歳以上で10万米ドル以上の可処分資産または流動資産を有する全国の個人投資家から無作為に選定した100人を対象に、インターネットで調査が行われました。

アジア投資家心理にサブプライムローン問題や世界的な信用収縮が大きく影響

調査によると、2008年第1四半期(1月-3月)の日本の投資家心理指数はアジア太平洋地域の中で依然として最も慎重な姿勢を示しています。また、中国、インドは依然として前向きな見方が強い一方で、香港、シンガポール、韓国、オーストラリア、ニュージーランドは前回の調査に比べて大幅に投資家心理指数が低下しています。

要因として、世界的な信用収縮やサブプライムローン問題が投資家心理に大きな影響を与えていると各国の投資家は回答しています。日本においては2008年第1四半期で70%が「大きな影響があった」と回答し、2008年第2四半期(4月-6月)については81%が「大きな影響があるだろう」と回答しています。また、多くの投資家は2008年第2四半期のアメリカ経済に対する見解についても「悪化するだろう」と予想しています。

アジア太平洋地域の投資家心理指数



※汎アジア投資家心理指数は、10のアジアにおける市場（中国、香港、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ）で計測した投資家心理指数を基に算出しています。

日本の投資家心理指数



■ とても楽観的
 ■ 楽観的
 ■ どちらでもない
 ■ 悲観的
 ■ とても悲観的

※汎アジア投資家心理指数は、10のアジアにおける市場（中国、香港、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ）で計測した投資家心理指数を基に算出しています。

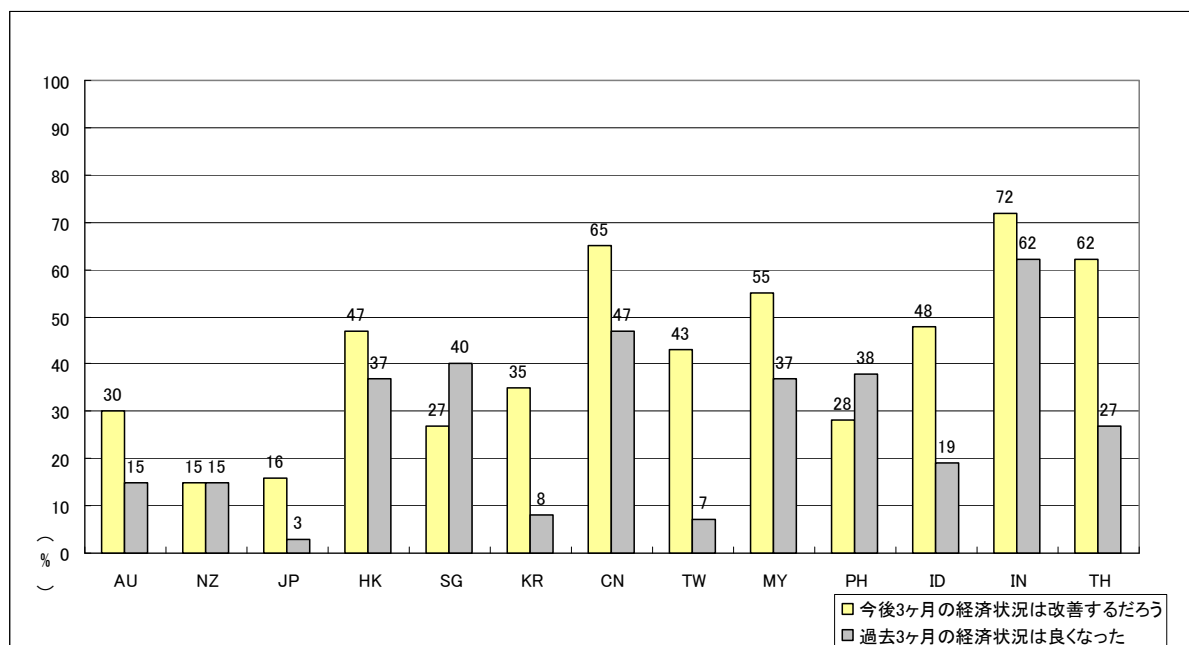
中長期的には慎重ながらも前向きな姿勢

経済状況についての調査では、2008年第2四半期は2008年第1四半期に比べ「改善するだろう」と回答した割合が増えている国が多くを占めています。また、個人の経済状況や、投資収益も同様に、2008年第1四半期に比べ2008年第2四半期は「改善するだろう」との投資家の回答が増えています。

この結果から、アジア太平洋地域の投資家は経済の厳しい時期を脱したと予測し、中長期的には慎重ながらも前向きな見方が広まっていると考えられます。

日本においては2008年第1四半期の経済状況が「良くなった」と回答した投資家の割合は前回の調査結果の15%から3%と低下しています。2008年第2四半期の経済状況については16%が「改善するだろう」と予想しています。

アジア太平洋地域の経済状況



日本の投資家の傾向

日本の投資家の3分の2以上が、過去3ヶ月の政府の政策については投資環境の改善には至らず、今後3ヵ月も同様の結果となると予想しています。

また、投資状況を見ると株式やデリバティブなどのリスクが高い投資について前回の調査と比較すると「好ましくない」という回答が66%(前回45%)と増加しており、慎重な姿勢であることがうかがえます。

2008年第2四半期の資産運用の予定では「現金/預金」をすると回答した投資家が24%(前回26%)、国内株式に投資すると回答した投資家が16%(前回11%)となっています。

ING 投資家心理ダッシュボードについて

ING 投資家心理ダッシュボード調査では、アジア太平洋地域における 13 の国と地域（中国、香港、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、日本、オーストラリア、ニュージーランド）のマス富裕層の投資家の心理や行動パターンに関する四半期ごとの追跡調査を行っています。調査方法として、市場ごとに 0（もっとも楽観的でない）から 200（もっとも楽観的）までの数値を用いて表しています。

この調査は、日本を除くアジア全域の投資家心理の指標を初めて提供するものです。また、ING 汎アジア投資家心理ダッシュボード指数も先に挙げた調査の一環として開発されました。汎アジア投資家心理指数は、10のアジアにおける市場（中国、香港、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ）で計測した投資家心理指数を基に算出しています。

アジア太平洋地域を対象にした ING 投資家心理ダッシュボードは、ヨーロッパにおいて行われた ING 投資家バロメーターの成功を受けて開始されました。同バロメーターは、個人投資家の信頼感(confidence)を測定するために、オランダ、ベルギーで定期的に公表されました。個人投資家心理を計測した信頼性の高い指標としても見なされており、ヨーロッパの金融業界のキープレイヤーに大きな影響を与えています。

2007 年第 3 四半期及び 2007 年第 4 四半期の調査は、2007 年の 8 月と 12 月にそれぞれ行われました。2008 年 3 月に行われた 2008 年第 1 四半期の調査では、13 のアジア太平洋市場を対象にした対面形式とオンラインでの調査が行われ、計 1308 のデータを得ました。調査対象は、30 歳以上の可処分資産が 10 万米ドル以上を保有する投資家と定義されています。但し、インドネシアについては、可処分資産が 5 万 6 千米ドル以上の 30 歳以上の投資家、フィリピンについては可処分資産が 10 万米ドル以上、もしくは月間個人所得高が 25 万フィリピンペソ以上の 30 歳以上の投資家と定義されています。

その調査は、国際的なりサーチ会社である TNS によって行われました。

ING グループについて

ING グループは、オランダのアムステルダムを拠点とする世界的総合金融機関です。世界 50 カ国以上にわたり、個人、法人、機関投資家等 7,500 万人以上の顧客に対して、銀行・保険業務及び資産運用業務を展開しています。約 12 万 5 千人の従業員を擁し、ING ブランドの下、グループ各部門を通じて、幅広い顧客層に優れた金融サービスを提供しています。

TNS 社について

TNS 社は、世界で有数の市場調査会社であり、各種業界の知識とリテール、購買者動向、ステークホルダーマネージメント、新商品開発やブランド・コミュニケーションなど様々な分野における世界クラスでの実績を兼ね備え、カスタムリサーチや分析を提供しています。世界 70 ヶ国に広がるネットワークを通じ、TNS 社は高度な情報と分析へのニーズを応えることで、クライアントと強固なパートナーシップを築き上げています。

グラフ内の国と地域名の表記について

本調査の対象となった 13 の国と地域名は次の通り、AU(オーストラリア)、NZ(ニュージーランド)、JP(日本)、HK(香港)、SG(シンガポール)、KR(韓国)、CN(中国)、TW(台湾)、MY(マレーシア)、PH(フィリピン)、ID(インドネシア)、IN(インド)、TH(タイ)として表記しています。

本資料は、アイエヌジー投信株式会社が情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。一般的または特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合があります。本資料記載の統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、アイエヌジー投信株式会社あるいはその関連会社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時における判断であり、予告なしに変更されることがあります。アイエヌジー投信株式会社とその関連会社等は、本資料の利用に起因する、いかなる直接・間接の損害にも責任を負いません。過去の成績は将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。